

TGR TEAM ZENT CERUMO

2023 AUTOBACS SUPER GT Report

SUZUKA GT 450km RACE

第3戦 鈴鹿サーキット

ZENT CERUMO GR Supra

#38 立川祐路／石浦宏明

◆ 6月4日（日） RACE

決勝結果 10位（暫定）



6月3日（土）の公式予選では、立川祐路がアタックするも硬めのタイヤだったことが影響したか、アタック中にコースアウトを喫し、走路外走行のペナルティをとられアタックラップのタイムが抹消に。14番手と悔しいポジションからレースを戦うことになった TGR TEAM ZENT CERUMO は、その悔しさを晴らすべく、6月4日（日）の決勝レースに臨んだ。

前日まで吹いていた強い風は収まり、気温 28 度／路面温度 46 度という暑さのなかで迎えた決勝レース。ZENT CERUMO GR Supra のスタートドライバーを務めることになったのは立川祐路だ。午後 1 時 30 分にスタートしたパレードラップ、フォーメーションラップを経て、立川は ZENT CERUMO GR Supra のアクセルを踏み込んでいった。

ただ、前日の公式予選 Q1 でもそうであったように、なかなかタイヤに熱が入っていかない。周囲のライバルたちも同様のようで、オープニングラップからウィービングを繰り返していくが、ZENT CERUMO GR Supra のタイヤが温まりきる前に、ペースに優る #24 Z GT500 に先行を許してしまい、立川は序盤 15 番手でレースを進めていった。



ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

HEISEL

LK HOMES

Felix88
RACING OIL

Fosbury

WAKOS

SANKI SHOKAI Co., LTD

asics

トヨタ東自大

JMS

SHIMWA
BRAKE FLUID

AVP

TGR TEAM ZENT CERUMO



しかし、タイヤにしっかり熱が入るとフィーリングが好転。ライバルたちに追いつきはじめる。とはいえ鈴鹿はオーバーテイクもしにくいコース。ペースを活かすためにも、ライバルよりも早めにピットに入りタイムを稼ぐアンダーカットを狙っていくことになった。20 周を終え ZENT CERUMO GR Supra はピットインを行い、立川がそのまま継続してドライブ。追い上げを期していった。

レース中盤に向けタイムを稼ぎたいところだったが、新たに装着したタイヤも序盤と同じもので、やはりウォームアップに苦しめられることになる。その間にライバルとのギャップは開いていったが、またもタイヤに熱が入るとペースアップ。32 周目には#3 Z GT500 に迫り、さらに 34 周目には#8 NSX-GT を日立 Astemo シケインで接触しながらもオーバーテイク。ライバルたちの接触によるアクシデント等もあり、ZENT CERUMO GR Supra はトップ 10 圏内に進出していった。

さらに立川は 40 周目、#37 GR Supra に接近しつつ、45 周までの長丁場のダブルスティントを終えピットイン。石浦宏明にステアリングを託した。立川がウォームアップに苦しんでいたこともあり、石浦は柔らかめのタイヤをチョイス。残り 32 周の戦いに臨んだ。アンラッキーだったのは、いざ石浦がコースインしようかというタイミングで、後方からピットアウトしてきた#17 NSX-GT を先行させざるを得なかったところ。これでひとつポジションを落としてしまった。

しかし石浦は、その後前を走っていた#37 GR Supra を 56 周目にパス。さらに#17 NSX-GT を追い、ポイント圏内の 10 番手に浮上する。燃費に余裕があったことから、さらなる上位進出を目指しペースアップを試みた。



ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

HEISEI

LK HOMES

Felix88
RACING OIL

Fosbury

WAKOS

SANKI SHOKAI Co., LTD

asics

トヨタ東大

JMS

SHIMWA
BRAKE FLUID

AVP

TGR TEAM ZENT CERUMO



ただその直後、鈴鹿サーキットに戦慄が走った。59 周目、130R 立ち上がりで表彰台圏内を争っていた#23 Z GT500 が GT300 車両と接触。キャッチフェンスに激しくクラッシュしてしまったのだ。車両が原形を留めぬほどのアクシデントに対し、レースは即座にセーフティカーランに切り替えられ、さらに 59 周の時点で赤旗中断に。ガードレールやフェンス等も大きくダメージを受けており、そのままレース終了が宣言されることになった。

アクシデントに見舞われた#23 Z GT500 の松田次生選手に大きな怪我がなかったのは不幸中の幸いで、同じレースを戦う仲間として TGR TEAM ZENT CERUMO のメンバーもホッと胸をなで下ろすことになった。そして ZENT CERUMO GR Supra の順位は、レース後抗議等が出され正式結果が確定していないものの、暫定で 10 位というものになった。

予選順位からはポジションを上げ入賞を果たしたことは評価に値するが、やはり TGR TEAM ZENT CERUMO が目指す位置はもっと上。チームの地元である次戦富士スピードウェイでの逆襲を期するべく、チームは 2 ヶ月のインターバルを迎える。

ドライバー／立川祐路

「後方のグリッドから、できることをやろうと頑張っていました。僕たちは硬めのタイヤを選んでいましたが、思った以上にウォームアップが悪く、序盤は少し苦しいレースになりました。ただ熱が入ってからはかなり良いペースになったと思います。とはいえ、一度ピットインしてからはせっかく抜いたクルマにアウトラップで離されてしまい、またタイヤが温まると追いつく……という展開になってしまいました。思ったより気温が下がったこともあり、ウォームアップが良ければもっと順位を上げられたかもしれません。ペースとしては良い手ごたえはありましたが、とはいえ結果を残さないといけません。次戦富士、そしてまた鈴鹿でのレースがあるので、しっかりと結果を残しにいきたいと思います」



TGR TEAM ZENT CERUMO

ドライバー／石浦宏明

「序盤から立川選手の前に#24 Z GT500 が走っていて、オーバーテイクが難しそうな状況もあったので、比較的早めに動いてアンダーカットを狙うような戦略を採りました。ただ、僕に交代したときには、硬めのタイヤでいってしまうとアウトラップのウォームアップで大きく遅れてしまうこともあり、最後は柔らかめのタイヤを選択していきました。ピットアウト時にアンセーフリリースをとられそうなタイミングでもあったので待ったのですが、そこはひとつ悔しいポイントでしたね。終盤は燃費にも余裕があり、ペースを上げるタイミングになったところでアクシデントが起きてしまいました。ドクターからドライバーが大丈夫そうという連絡を聞き、SUPER GT を戦う仲間のひとりとしてホッとしました。とは言え、今の SUPER GT は速度も高く、安全性も今後すごく大事になってくると思うので、その点は何か改善できることがないのか気にしていきたいです。今回は自分たちの本来のパフォーマンスよりも下になってしまっているので、次戦富士でしっかり優勝を狙えるよう、見直していきたいと思います」



村田淳一監督

「10位という結果となりましたが、ポイントをなんとか獲ることができました。今回は#37 GR Supra や#8 NSX-GT と予選ペースが良くなかったチームと争いその結果で1ポイントを獲れたので、戦略としては悪くなかったと思いますエンジニアが考えてくれた戦略でトラックポジションを守れたので、その点は大きな成果でした。結果的に予選も含めたタイヤ選択がチームとして上手く機能していなかったと思うので、そこは反省しつつ、2ヶ月後の次戦に向け、前半戦で良かったところ、悪かったところを出していきたいと思います。1ポイントで満足するわけにはいきませんし、次回以降まわりのサクセスウエイトも重くなってきます。勝てるような準備をして、悪くても表彰台と言えるようなレースをできるように、しっかりと準備していきたいと思います」



TGR TEAM ZENT CERUMO



TGR TEAM ZENT CERUMO

決勝結果（暫定）

Rank	Car No.	CarName	Lap	Diff
1	19	WedsSport ADVAN GR Supra	58	
2	36	au TOM'S GR Supra	58	2.094
3	1	MARELLI IMPUL Z	58	25.303
※ 4	3	Niterra MOTUL Z	58	28.218
5	100	STANLEY NSX-GT	58	29.555
6	14	ENEOS X PRIME GR Supra	58	41.713
7	16	ARTA MUGEN NSX-GT	58	49.701
8	24	REALIZE CORPORATION ADVAN Z	58	1:20.858
9	17	Astemo NSX-GT	58	1:28.614
10	38	ZENT CERUMO GR Supra	58	1:33.012
11	37	Deloitte TOM'S GR Supra	58	1:35.161
12	8	ARTA MUGEN NSX-GT	58	1:42.345
13	23	MOTUL AUTECH Z	57	1Lap
14	64	Modulo NSX-GT	57	1Lap
15	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	57	1Lap

※CanNo.3 競技結果に 60 秒加算(GTA プルテン No.028-S.4「決勝レース中に 2 回の給油を行わなかった」

決勝レースが赤旗中断・中止により 2 回の給油義務が行えなかった為、ピットイン+給油時間相当時間を 60 秒とした。



TGR TEAM ZENT CERUMO

ポイントランキング (暫定)

Rank	Car No.	CarName	Point
1	36	au TOM'S GR Supra	35
2	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z	29
3	23	MOTUL AUTECH Z	25
4	100	STANLEY NSX-GT	22
5	19	WedsSport ADVAN GR Supra	22
6	14	ENEOS X PRIME GR Supra	21
7	1	CALSONIC IMPUL Z	18
8	17	Astemo NSX-GT	17
9	8	ARTA NSX-GT	11
10	38	ZENT CERUMO GR Supra	7
11	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	6
12	37	KeePer TOM'S GR Supra	5
13	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	5
14	24	REALIZE CORPORATION ADVAN Z	4
15	64	Modulo NSX-GT	1

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

HEISEI

LLK HOMES

Felix88
RACING OIL

fosbury

WAKOS

SANKI SHOKAI Co., LTD

asics

トヨタ東自大

JMS

SHIMWA
BRAKE FLUID

AVP